

一本の木に思う

校長 福田 雅人

本校生徒玄関から外に出ると、正面に背の高い大きな木が見える。

この木の、天に向かってひたすらにまっすぐに伸びる、
凛^{りん}とした姿が私はとても好きだ。

この木の名前は、ヒノキアスナロ。
アスナロという木の北方系の変種だ。

アスナロは漢字では「明日檜」や「翌檜」と表される。

「檜（ヒノキ）」と言え、耐久性に優れ、木目が美しく、ほのかな香りがする最高級の木材、いわば木材の王者だ。

アスナロ（明日檜、翌檜）という名前は、そんな檜にあこがれ、「明日は檜になろう」と懸命に努力を続けているという、この木の印象から名付けられたという説がある。



これはあくまで俗説であるかも知れないけれど、アスナロの天に向かってひたすらにまっすぐに伸びていく姿を見ると、目標に向かってひたむきに努力を続けることの大切さを感じ、私はいつも心を打たれる。

本校のアスナロは、おそらく創立間もない時期から現在の場所にあったと思われる。

であるならば、このアスナロは、80年以上の長きにわたり、西高生を見守り続け、

「目標に向けて努力を続けることの大切さ」という無言のメッセージを送り続けてきたのではないだろうか。

アスナロは凛^{りん}とした姿で、これからも夢に向かって進んでいく西高生を、励まし勇気づけ続けてくれることだろう。

みなさん、この西高で、アスナロの木に見守られながら、目標に向けてひたむきに努力を続ける、そんな充実した高校生活を創りあげていきませんか。